

北原直教授退職記念号発刊によせて

経営学部長 光 武 幸

この度、『札幌学院大学経営論集』第2号が、北原直教授退職記念号として発刊されるにあたり、御挨拶を申し上げます。北原先生は2008年3月31日をもって札幌学院大学商学部を定年退職されました。小樽商科大学商学部助手から1989年4月に札幌学院大学商学部教授として赴任されて以来、19年間に亘り本学部に勤務されました。その間、商品学や商学調査実習、ゼミナールなどを中心に学部の教育に携わるとともに、学部長や評議員として学部や大学の運営に貢献されました。その貢献に心より感謝を申し上げます。

〈北原先生の研究業績〉

北原先生は海のない栃木県のご出身ですが、大学、大学院を通して水産学分野の研究をなされてきました。北海道大学大学院水産学研究科時代には、水産動物の筋肉の酵素について研究を為され、博士課程を単位取得退学なされて小樽商科大学に赴任されてからも北海道を代表する魚である鮭やスケトウダラのカロチノイド色素や酵素に関する生化学的な研究を続けてこられました。そして1981年には水産学博士の称号が授与されております。

本学に赴任されてからは、自然科学的な立場からの研究を離れて、社会科学的な立場から水産物を取上げて研究することに軸足を移しています。それは現代が、生産と消費の人的・地理的・時間的な乖離をますます著しくし、同時にそれはマイナスの社会現象を生じさせているからだとして、北原先生は言っておられました。「消費のための生産」という商品本来の存在目的が、社会において適正に実現されているのだろうか、例えば、安全性ひとつとっても、利益優先の社会において必ずしも担保されていないのではないか、必要以上に商品を域外へ移動させているのではないかという認識に立って、水産物という商品を人間の生活価値における真・美・善の追求のために研究していこうと考えたことによります。

そして研究生活において商品学会に席を置いた頃より、水産物、とくに鮭、ホタテ、昆布の自然科学的側面、つまり物的特性のみならず、流通、消費過程で人間の主観によって評価される社会的品質の両者の解明を介して商品を取り扱おうと学会でもよく発言をしておられました。

〈教育における業績〉

北原先生は、商品学Ⅰや商品学Ⅱ（実習科目）を担当されるとともに、商学部の特徴ある科目として学生たちを惹きつけてきた商学調査実習も担当されてきました。商学部教授に赴任されて以来、学生たちをつれて道内のみならず東北、北陸でも調査活動を行い、多くの学生たちのコミュニケーション能力、主体的に学ぶという意識を高めるためにご尽力なされました。それを物語るように、いつも北原ゼミへの希望者が多く、これは先生の温かい人柄と教育力によるものと思います。商品実験も人気が高く、ビールのブラインドテストでは、学生は言うに及ばずビール通といえどもなかなか当たらないテストを楽しんでやっておられたのを思い出します。

最後になりましたが、記念号の発刊にあたりまして、北原先生のご懇意にしておられました兵庫県立大学経営学部の三ツ井光晴先生、同志社大学商学部の大原悟務先生が大変お忙しい中、記念号のご執筆をご快諾いただきまして、心より御礼申し上げます。先生におかれましては、引き続き私共にご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。併せて、今後ともご健康に留意されてお過ごしなされますことを心より祈念する次第でございます。